

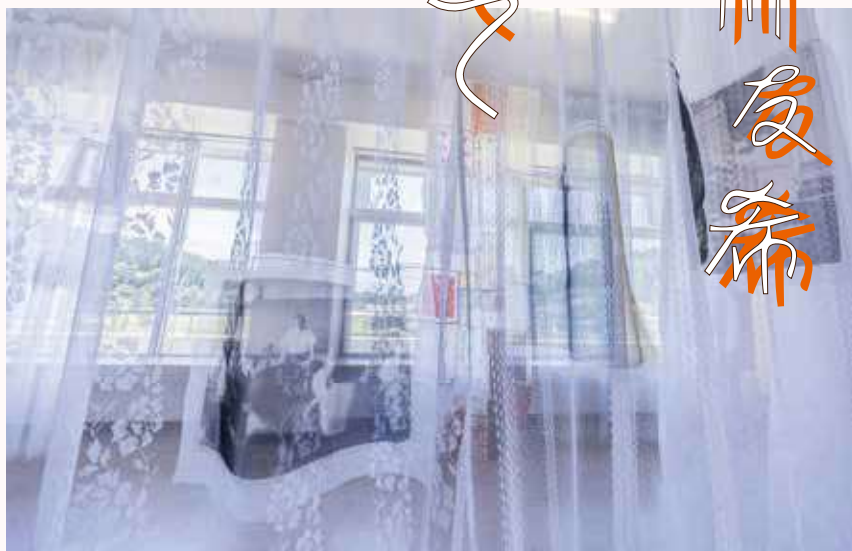
**ECHIGO-
TSUMARI**
ART FIELD 2025



大川友希

こども五感体験美術館
奴奈川キャンパス企画展
大川友希「むすんでひらいて」

2025 年 7 月 19 日 (土) - 11 月 9 日 (日)
【定休】 祝日を除く火水曜
【時間】 10:00-17:00 (10 月以降 16:00 閉館)
【料金】 「越後妻有 2025 夏秋」共通チケット、
もしくは個別鑑賞料一般 800 円



布 大川友希 《むすんでひらいて》

奴奈川キャンパスは2014年に閉校した奴奈川小学校を活用し、アーティストとともに美術や音楽、家庭科などの副教科を学ぶ大地の芸術祭の学校として誕生。人間が自らの身体を通して土や木などのリアルな素材と触れ合う機会が減り、デジタル化が進む社会のなかで、2024年には未来を担う子どもたちが五感を活性化し体験できる施設としてリニューアルしました。

2025年は、古着を用いて作品をつくる作家・大川友希が、鑑賞者の手によって自由に開け閉めできる、カーテンを模した立体作品を展示します。普段窓に吊るされているカーテンは朝に開き、夜に閉じられ、それは始まりと終わりを象徴する所作とも言えます。

かつて子どもたちの声が響いていた小学校の一室で展示される本作は、風に揺れる布が重なり合い、変わり続ける地域の風景や記憶の層を思い浮かべます。その変化を楽しみながら、鑑賞者が空間と関わる新しい体験を提案します。

▼展示衣替え！ むすんでひらいてワークショップ

体験型あみ機でつくられていくあみ物を、教室のインスタレーション展示に加えるワークショップを作家と行います。

日時 | 10/12 (日) 10:00-12:00、13:00-15:00、参加費 | 無料 (別途、奴奈川キャンパス入館料)



企画展詳細

作家プロフィール 大川友希 (おおかわ・ゆき)

2012年愛知県立芸術大学卒業。古着や布を身体にもっとも近い生活の記憶や時間の痕跡を帯びた素材として立体作品を制作。誰かと誰かの記憶を勝手に繋げた誰も知らない新たな記憶の「かたち」。近年では、芸術祭やアーティスト・イン・レジデンス参加を機に、地域の歴史や祭をモチーフに表現の展開を模索中！

奴奈川キャンパス 2025 イベント

動

大地の運動会

日時 | 9/20 (土)

場所 | 奴奈川キャンパスグラウンド

※要事前予約制

※当日は、館内は臨時休館となります

※詳細は8月中旬ごろに公式HPにてご案内します

FC 越後妻有による体操教室

日時 | 8/18 (月)、9/1 (月)、22 (月)、10/6 (月)、20 (月)、11/10 (月)、24 (月祝)、12/8 (月)、22 (月)

各日 10:30-11:30 ※11月以降は9:00-10:00

料金 | 500円/回

※未就学児、まつだい棚田バンクFCコースの方は何回でも無料

FC 越後妻有によるサッカー教室

日時 | 7/26 (土)、8/9 (土)、8/23 (土) 各 10:30-12:00

料金 | 500円/1名

※まつだい棚田バンクFCコースの方は標準3名、小口1名無料

塗

松本倫子「Hoppe」の塗り絵

日時 | 開館中いつでも

料金 | 1個800円～ (別途、奴奈川キャンパス入館料)

彫

《大地のおくりもの》キーホルダーをつくろう

日時 | 7/27 (日)、8/10 (日)、17 (日)、24 (日)、31 (日)

各日 13:00-16:00 随時

料金 | 1個1,000円 (別途、奴奈川キャンパス入館料)

《木湯》どうぶつの積み木をつくろう

日時 | 10/18 (土)、19 (日) 時間の詳細は公式HPを参照

料金 | 1個1,000円 (別途、奴奈川キャンパス入館料)

※作家・鞍掛純一が滞在しています

踊

日本大学芸術学部舞踊コースによるダンス

日時 | 10/18 (土)、19 (日) 時間の詳細は公式HPを参照

料金 | 無料 (別途、奴奈川キャンパス入館料)

常設展示作品 (一部)

光



瀬山葉子《Saiyah #2, 10》

音



松本秋則＋松本倫子
《感星トリス in 奴奈川キャンパス》

木



鞍掛純一＋日本大学芸術学部彫刻コース有志
《木湯》

紙



関口光太郎《除雪式奴奈川姫》

アクセス

新潟県十日町市室野 576 (旧奴奈川小学校)

- ・ほくほく線まつだい駅から車で10分
- ・大地の芸術祭オフィシャルツアーでの立ち寄りあり

お問合せ

「大地の芸術祭の里」総合案内所

☎025-761-7767



大地の芸術祭
公式HP



日本博 JAPAN CULTURAL EXPO 2.0



日本博HP

illustration: HataHata
photo: Kanemoto Rintaro,
Nakamura Osamu